

ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業廃棄物協会

25. 10. 31までの回答分

外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	佐倉市志津付近	出勤のため走行中	坂の頂上付近に路上駐車した車があったので、避けようと思ったところ、対向から無灯火の車両が来た。	「かもしれない運転」を励行する。		○	○		
2	自社 電気室前	工場内歩行中	床面の突起物(約2cm)に気づかず、つまずいて転倒しそうになった。	突起物をグラインダーで削り、突起物をなくした。 歩行中は足元に注意し、歩行する。				○	
3	自社工場内階段	階段を上ろうとしたとき	ズボンの裾が長く、靴で踏んでしまい、転倒しそうになった。	ズボンの裾は適正な長さに合わせ、踏まないようにする。	○				
4	一般道直線上	社用車で移動中	直線道路を走行中、前の車が急ブレーキをかけ、止まってからウィンカーを点けたので、追突しそうになった。	前の車との車間距離をあけるように心がける。		○			
5	客先	吸引作業中	ホースが暴れて、オペレーターの足元にあたりそうになった。	ホースの固定、ロープ・番線による結束が必要と思われる。	○				
6	ガソリンスタンド	油水分離槽の清掃時	分離槽のフタを開けようとフックを軽く持ち上げ、フックにフタがかかっていることを確認し、持ち上げた瞬間、フックが腐食していたため、フタからはずれ、その反動で転倒した。	フックが取れるかもしれないことを予測して、ゆっくり持ち上げる。				○	
7	油槽所	990klの地上タンク清掃作業時	タンク残渣の抜取作業を行う際、タンク内に入ろうとサイドマンホールを開放したとき、近くに置いてあった酸素濃度計のアラームがなったので、濃度計を確認したところ、酸素濃度が8パーセントしかなかった。	タンク内だけでなく、開口部付近であれば、タンク外でも酸素欠乏になる恐れがあるので、開放時でも酸素濃度計を準備し、マンホールを一気に開放せずに、酸素濃度を確認しながら、少しずつ開放する。			○		
8	ガソリンスタンド	洗車機の側溝を清掃しているとき	グレーチングを半分しか開けていなかったため、そこに足をかけたとき、側溝に落ちそうになった。	作業時、グレーチング等はきっちり開け、作業する。	○				
9	駐車場(現場)	パワーショベルで路盤作りをしているとき	パワーショベルから降りようとしたら、安全チョッキが操作レバーに引っかかった。	安全チョッキをきっちり着用する。	○				○

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	首都高速道路環状線飯倉付近	10tダンプ車で顧客先へ向かうため、走行している時	タイミングギアの破損故障により、いきなりエンジンが停止してしまった。後方からの追突を防ぐためハザードランプのスイッチを入れ、惰性走行で出口付近の路肩に停車する事で事故等は発生しなかった。	高速道路走行中における故障やトラブルは、大きな事故に繋がる可能性があるため日頃より乗務員教育として、突発的なトラブルに遭遇した場合の手順を教育し、慌てないで対応できるように、シミュレーション訓練を行っておく。				○	
2	環状7号線の葛西付近	4tロールオン車で廃棄物を積載し、走行している時	走行中の前方道路路上に自動車のタイヤが落ちていたため、前を走行していた車両が急ブレーキを踏んで止まった。当方も慌ててブレーキを踏んで追突を回避した。	走行中は周囲や前方の道路等に注意して走行し、急な障害物があっても、停車若しくは回避できる予測運転の教育が必要である。警察の講習訓話では、年末等は人が酔っぱらって道路路上に寝ている事もあるとの事。		○	○		
3	千葉県勝浦市	現場作業を終了して、現場を退出するとき	格納していたミラーを戻して発進しようとしたら、通行人にミラーが当たりそうになった。	乗車するときには、車体だけでなく、周囲の確認も徹底する。	○				
4	国道357号付近	高速出口を出て357号の左車線に寄るため、一車線ずつ車線を変更中	周囲には大型車両が多く、いちばん左の車線に寄った所、すぐ前方に2t車が停車し、電話をかけていた。あぶなく追突するところだったが、後続車両との車間が少しあったので、避けて通過することができた。	この場所では交通量も多く、合流・分流も難しいが、なるべく前方車両との車間をとり、前方を早めに確認する。		○	○		
5	高速道路	走行中	前方20mのところ角材が落ちていた。気づくのが遅ければ、乗り上げて大事故に。	落下物にも気を配り、目線を広く、目配りをして走行する。			○		
6	東関道	3車線上り方面の一番左の車線を走行中	中央車線の4tトラックが自車の真横でウインカーを出して入ろうとして、自車の側面と接触しそうになった。相手の車両から自車が見えていると思い込み並走していたが、ミラーでは死角になっていたものと思われる。	多車線の道路では並走せず、前後だけでなく、左右にも気を配り、安全走行する。		○			
7	現場	狭い敷地内でのコンテナ交換作業中	左右・後ろを注視し、バックでの作業をしていたとき、死角からいきなり作業員が交換範囲内に侵入してきてヒヤリとした。	作業範囲内侵入禁止。ガードマンをつけてもらい、作業する。死角のない安全な場所にて作業する。		○			○
8	国道128号線勝浦～御宿間	電灯のないトンネルに侵入しようとしたとき	外が晴れていてまぶしく、トンネル内の様子が見えずに侵入したところ、自転車に乗ったおじいさんが道の真ん中をふらふら走行していた。	トンネルに入るときは特に「かもしれない運転」を心がける。		○	○		
9	野田市の小学校の校門前	荷積のコンテナをバックで車に載せるとき	荷の前に低学年の子供がしゃがみこんでいたので、死角になり、車と荷の間に挟みそうになった。作業前に人等いないか確認したが、わずかの間に入り込んだらしい。	この現場は学校前と個人住宅の間にあり、車両で進入すると屋根もぶつかりそうなほどギリギリになる。住宅の方に声をかけ、立ち会ってもらいたいのだが、当日は留守で、やむなく一人で作業した。学校前でもあり、必ず立ち会いをしてもらうよう、現場サイドから連絡してもらうようにする。		○	○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
10	現場	コンテナを交換するとき	現場に鉄板が敷かれていたが、鉄板と鉄板の継ぎ目に段差があり、コンテナを設置する際、コンテナのローラーがひっかかり、コンテナが暴れてうまく設置できなかった。	現場監督に話をして、鉄板の継ぎ目の段差をなくしてもらおう。				○	○
11	信号のない交差点	右折するため交差点に進入したとき	対向車が左折のウインカーを出していたので、こちらも右折を開始しようとしたが、対向車が左折せずに直進してきてヒヤリとした。	他の車輛のウインカーなどに頼らず、先を読んで運転する。		○			
12	富里IC付近	走行中	前方車両が急ブレーキを踏み、追突しそうになった。	自動車を運転するときには、前方車両との車間距離を十分に空け、安全運転に努める。		○			
13	交差点内	右折しようとしたとき	右側後方からバイクが出てきて接触しそうになった。	右折・左折時は前方だけでなく、後方の安全も確認してから、右折・左折を行う。		○			
14	信号のある広いT字交差点	走行中	交差点に進入しようとしたときに信号が黄色に変わった。停止車線を越えていたため、通過しようとしたとき、前方車両が交差点の真ん中で止まったため、急ブレーキをかけてギリギリ停車した。	交差点に入るときは、歩行者信号が赤になっていれば車輛信号も赤になると予想できるので、その場合は減速し、止まるという気持ちをもつ。	○	○			
15	四街道インター近くの東関道トンネルのところ(四街道RCの入口)	走行中	トンネルに入ったところで前方車両が急に左側に止まり、後部座席に乗っていた人が後ろを確認せずにドアを開けて降りようとしたので、接触しそうになった。	走行中、前方車両が止まったら、人が乗り降りしないか、徐行運転して安全確認する。 また、自分が誰かを乗り降りさせる場合は、後続車両がないかよく確認してもらおう。		○			
16	市川市の中学校	搬入路のテニスコート脇を通過しているとき	通過中もテニス部が練習していたため、急に眼の前にボールが飛んできて、ラケットが視界に入り、慌てて止まった。	事前に現場に連絡をし、搬入を伝えて、ガードマンもしくは現場の人に練習をやめてもらうなどしてもらおう。		○	○		
17	国道409号線	右側車線を走行中	Uターン箇所に侵入するため、ウインカーを出しながら走行していたら、左側にある工場の出口からトラックが出てきて、2車線をふさぐような形で走行していった。	トラックが停車しているのは確認していたが、本線に出てくるとは思わなかったもので、ハッとしました。これからは本線に出てくるかもしれないと思って、注意するよう心がける。		○			
18	松戸市一般道	走行中	渋滞していた対向車線のバスの後ろから横断しようとしていた歩行者に気づき、ハッとしました。	対向車線が渋滞しているときは、もっと注意をして、周りに気を配りながら走行する。 歩行者には、なるべく横断歩道を渡ってもらいたい。		○			
19	現場周辺の道路	4tコンテナ車両を運転中	道路が狭く、右側のカラーコーンを気にしていたら、左側のポールに接触しそうになった。	道路が狭いところは最徐行で、左右を必ず確認する。	○		○		

中間処理

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	フレコン荷降ろし場	フォークリフトを使ってのフレコン移動作業	作業員がフォークにフレコンの紐をかけ、フレコンを持ち上げても良いというサインを出したので、フォークリフト運転手が持ち上げたところ、作業員のビニール手袋がフォークと紐に挟まれてしまい、指が挟まれたと思いヒヤリとした。(手袋部分が挟まれただけで、指は挟まれなかった)。	挟まれる恐れのある部分には触らず、フォークにかけた紐を下から引っ張りながら紐をかけるように作業マニュアルを変更した。		○			○
2	工場内	荷を台車で運搬作業中	電気ケーブルに足を引っかけ転倒しそうになった。	歩行通路上にケーブルを這わせる場合は引っかけないように養生を行う。				○	
3	自社地下作業場	夾雑物除去作業をしているとき	ポンプを引き上げる作業で槽の檻(鉄板)が重い為に開閉作業中に落ちそうになった。	檻(鉄板)を分割化にして重さを軽減させる。				○	
4	自社中間処理施設内	粗選場でコンテナの扉を開けたとき	一番後ろに積んであったガラスが下に落ちて、顔の付近まで飛んできた。	現場でシートをかける際、扉付近のゴミをチェックして、割れ物があるときには扉を慎重に開ける。	○	○			
5	自社工作作業場	研磨作業をしているとき	火花がゴーグルの隙間から飛び込んできた。	隙間の無い品質の良いゴーグルを使用する。				○	
6	自社工場内	容器包装プラスチックと、そうでない異物を手選別により選別しているとき	コンベア上を流れてきた釣り糸に釣り針がついていて、左人差し指に刺さった。	釣り糸がながれてきた時は、釣り針がついているかもしれないということ想定して、作業にあたるようにする。			○		
7	自社工場内	フォークリフト運転中	1m ³ のフレコンを運搬中(前進中)、保管場にある他の廃棄物に接触した。	大きな荷物を運搬するときは、前方の視界が悪くなるので、バック走行を心がける。	○				○
8	自社 場内	フォークリフト運転中	場内の土間に穴が開いており、その穴にタイヤがとられてしまい、かなり大きな衝撃を受けた。	早急な土間修理を実施するか、一時的には敷き鉄板で応急処置をする。				○	○
9	自社 構内	ダンパー車で荷降ろしをするとき	運転席から降りて助手席側に移動した際、床で足元が滑った。	構内(ピット前)の泥等を掃除し、常にきれいな状態にしておくこと。又、側溝をもうければ、清掃も楽にできると思う。			○		
10	置場	敷き鉄板をバックホウ(クレーン仕様)で吊り込みをしているとき	荷を降ろす際、鉄と鉄が滑って作業員に接触するところだった。	作業員は荷降ろしが完了するまでは、荷台には上がらないこと。		○			○

11	精製ガス塔	pH計を洗浄のため取り外したとき	配管がつまり内圧がかかっていたために、汚泥が少し噴出し顔にかかった。	噴出した場合をKYし、防災面(マスク)を降ろして作業を行う。pH計取り外し時は、取り外す場所にウエスを巻き、噴出を最小限に抑える				○		
	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業	
12	自社 水砕ピット上部	水中ポンプ詰まり除去作業中	水中ポンプの詰まり除去実施後水中ポンプを水砕ピットに沈め、水が流れているかを確認するためホースを触ったら、水中ポンプのホースが外れ、水が噴出し、水を被りそうになった。	防災面を降ろす。 水中ポンプのホースがしっかり接続されていることを確認してから、水中に沈める。	○					
13	自社 フレコンバック置場	フレコンバック交換作業中	上部鉄骨に頭をぶつけた。	作業スペースが狭いので、狭い場所に入る際は周囲の確認をしっかりと行い、作業をする。 上部注意喚起表示を貼る。	○				○	
14	自社工場内北側道路	フォークリフトで副産物フレコンを回収移動中	雨で視界が狭くなっており、近くの冷却塔の蒸気で前が見えにくくなっていたため、コンクリートの防液堤にぶつかった。	雨天時はライト点灯すること。 視界が悪く運転しにくい場合は、安全最優先で止まること。 場合により、視界が回復するまで作業を中止すること。	○		○			○
15	自社 振動コンベア	スラグの塊が引っ掛かっていたため、取り除こうとしたとき	作業を急ぐあまり、本来の耐熱手袋ではなくゴム手袋で作業をしていたため、やけどしそうになった。	作業手順にある保護具(耐熱手袋)の使用を守る。	○					
16	自社 水砕ストレーナ設備	ストレーナ交換清掃作業をしたとき	入側の弁が固着し硬くなっており、力を入れて無理やりハンドルを廻そうとしたとき、腰を痛めそうになった。	定期的バルブ点検をし、固着しないよう整備する。 腰を痛めるほど力を必要とする場合は、作業せず、上司に報告、作業方法を再KYする。	○				○	
17	自社 熱交換器設備	熱交換器のプレート交換作業が終わり、漏れの有無のチェックをしていた際	ドレン弁が突然抜けて噴出し、酸性水(pH2)を浴びそうになった。	ドレンバルブを新品と交換。 作業前のKYに酸性水が噴出した場合を想定し、保護具を確実に装着することや、逃げる場所の確保も行い作業する。	○				○	